「わたしにはもうひとつ名前があるんだよ。」と友人から言われたとき、あなたは…

外国にルーツがある人々にとって、日本での暮らしはどんなものでしょうか。

小郡市在住の韓国籍の方にお話を聞きました。彼女は小・中学生の子どもを持つお母さんです。

私は、日本語を読んだり、話したりできますが、会話はできても文章が読めなかったり、（出身の国によっては）漢字を苦手にする人も多かったりして、困っているのではないでしょうか。

また、名簿に名前を書く時など、名字は日本名（夫の名字）を書いています。本当は、韓国の名前を使いたいけど、日常生活では日本名を使っていた方が、いろいろ説明しなくていいから・・[注]

それと生活の上での様々なルールも理解がむずかしいです。たとえば、地域や学校の役員決めなど…。

子どもには、韓国と日本の両方の文化を学んでほしいです。でも、親が韓国人であることで、子どもがこれからどんな問題に出会うのか、それがとても心配です。

[注] 韓国では、結婚後も名字が変わりません。子どもは父親の名字を名乗ります。

日本と朝鮮半島や中国大陸は二千年も前から人・物・文化の交流を続けてきました。

しかし、歴史的経緯を背景として外国籍住民として多数を占める在日韓国人・朝鮮人に対する差別意識が依然として存在します。歴史を正しく理解し、克服していく取り組みを行っていかなければいけません。

また、近年、著しい国際化の進展に伴い、労働者として、あるいは研修や勉学等のために在留する外国の人々が増えつつあり、本市でも500名近い外国人が暮らしています。

昨年の七夕人権考座★で、徐（そ）麻弥（まみ）さんに在日朝鮮人として、ご自身の体験を話していただきました。

一番うれしいのは
「チマチョゴリを
着てきてね。」
と言われた時…。

朝鮮人が身近にいることを感じてほしくて、友だちの結婚式の招待状が来るたびに「チマチョゴリ[注]を着て行っていい？」と尋ねます。

ある友人からは「着て来ないでほしい。」と言われました。親戚の中に気分を悪くする人がいるかもしれないからという理由でした。

着て行きたいという気持ちと、また断られるかもしれないという不安を抱えながら、いつも尋ねています。

そんな中、一番うれしいのは、「結婚式にチマチョゴリを着てきてね。」と、先に言われた時です。

言葉や習慣の違いを認め合い、外国にルーツがある人々が、ありのままで受け止められ、のびのびと生活できる社会にしていきましょう。

[注]チマチョゴリ
日本人にとっての着物にあたる、お正月や結婚式のときに着る朝鮮の民族衣装です。